

インドの印刷会社及び印刷機械市場に関する報告書

印刷物の需要は新興国を中心に拡大しており、特に、中国やインド等の BRICs 地域の需要が増大している。

なかでも、人口 10 億人のインドは、近年の経済拡大に伴い、印刷産業の出荷額も年々成長を続けている。

また、IT 先進国であるインドの先進印刷企業は、近年の印刷工程のデジタル化を背景に急速な技術進展を遂げつつあり、印刷品質の向上等により、欧米、豪州などの英語を標準語とする国からの組版業務や印刷業務の受注が増大している。

これら旺盛な印刷需要から印刷機械の需要も増大し、ドイツ、日本を中心に高級機が輸入され、近年はインドのオフセット印刷機メーカーも台頭してきている。

インドの印刷機械市場は零細・小企業、中企業、そして大企業という 3 つのカテゴリに分かれている。

インドの印刷設備施設の大半は零細企業や中小企業が保有しており、インドの市場を支配しているのは膨大な数の非組織部門企業である。

印刷設備施設のおよそ 90% から 95% は、中小企業に属している。

インドにはおよそ 70 社の印刷及び関連機器メーカーがあり、インドの印刷機械市場はおよそ年間 16.4% の率で成長を続けている。

インドの調査会社によると、2007 年時点におけるインドの印刷機械市場の規模は 4 億 6,530 万米ドルとなっており、2007 年から 2012 年間の予想年間平均成長率 (CAGR) はおよそ 16.4% である。

印刷機械市場の規模は 2012 年には 9 億 9,210 万米ドルに達するものと予想されている。

インドの印刷機械市場（国内需要）

2002-03	464.5	（1000 万ルピー）
2003-04	570.5	
2004-05	854.3	
2005-06	1140.6	
2006-07	1851.3	
2007-08	3580.0	

インドにおける印刷機械の国内需要が急速なペースで伸びていることが分かります。

46 億 4,500 万ルピーであった 2002-03 年度の国内需要が、2007-2008 年度にはおよそ 6 倍になっています。

このように、今の印刷機械市場で毎年上昇しているのは、インドと中国だけです。

日本の印刷機械関連会社にとっては、インドの印刷機械の輸出よりも、輸入の方に興味があると思いますので、インド市場の印刷機械の輸入統計を下記の如く示します。

インドの印刷機械——輸入統計（単位：10 万ルピー）

	2003	2004	2005	2006	2007	2008(4月～12月)
オフセット輪転機	2,113	5,576	32,044	27,046	33,818	33,973
オフセット枚葉機	1,520	5,451	2,501	1,771	5,797	5,637
その他のオフセット機	10,404	23,238	19,997	41,045	54,711	26,962
フレキソ印刷機	1,984	2,105	1,686	10,235	11,499	-----
グラビア印刷機	1,694	3,430	1,240	5,437	3,339	-----
インクジェット -プリンター	4,957	4,976	8,606	9,627	15,935	-----

この統計から判断出来る事は：

- ・オフセット輪転機は2005年以降急激に輸入が増えている。
- ・オフセット枚葉機は2007年以降増加している。
- ・フレキソ印刷機は2006年は前年比6倍になり、以降増加している。
- ・インクジェットプリンターは年々増加して、特に2007年以降の増加が大きい。
等が分かります。

次に日本のメーカーにとって競争相手となる地場の印刷機械製造会社の統計です。

	合計	大企業	中企業	小企業
オフセット輪転機	約 24 社	4 社	5 社	約 15 社
オフセット枚葉機	約 30 社	5 社	中小合わせて約 25 社	
フレキシソ・プラビア	約 25 社	5 社	中小合わせて約 20 社	

意外と印刷機械製造会社があります。

インドは国として印刷産業及び印刷機械産業を救済したり保護して、これら産業の経済的発展を後押ししています。

- ・ 中小企業省及び商工省は新たに経済特区を新設したり、中小企業向けにインフラ開発と印刷部門促進をサポートする複数のスキームに取り組んでいる。
 - ・ 印刷産業への海外からの直接投資は、投資比率 100%まで投資適格性が自動的に付与される。
 - ・ 2010 - 2011 年期の一般会計予算において、中小企業向けには 179.4 億ルピーから 240 億ルピーへと予算配分を増額した。
 - ・ 新聞用紙及び軽コート紙の価格が高騰したために出版コストが大幅に増大したり、景気低迷による広告収入の減少に印刷メディア業界が対応できるよう、政府が救済措置を施している。
- このような対策が副次的に印刷機械市場にも恩恵をもたらしている。

- ・ メディア業界救済のために 2009 年における雑誌印刷に使用される新聞用紙、

光沢仕上げ新聞用紙、及び軽コート紙の輸入にかかる関税の全面的な免除措置を施した。

このような対策により印刷会社が救済され印刷機械市場にも恩恵をもたらしている。

- ・ 海外からの投資にかかる規制が緩和された。新聞及びニュースや時事問題を扱う定期刊行物の場合は 26%まで、そしてニュース以外の出版メディアについては 100%について、海外からの直接投資が認められることとなった。
この措置が印刷機械市場にも恩恵をもたらしている。

このような救済措置や政府援助によって印刷機械業界全体の市場は年々増大してきますが、依然として印刷機械や関連装置は 70%から 80%は海外からの輸入品で依存している。

国産製の機械はなかなか外国製と太刀打ち出来ない状態が続いています。

中古機の増大

それに加えて、印刷会社や印刷工場が購入する機械では、中古機の占める割合も大きいのが実情であります。

最近の日本で市場に出回る中古印刷機は殆どインドの中古機取り扱い会社が買い占めていると言われるほど、インド向けの中古輪転機の需要は大きい。

インドの印刷業者の大半は、ドイツや日本から中古機を輸入している。

インドの中古印刷機械の関税率は 7.5%または無税と低く（ちなみに中国向けの中古機は 増値税と輸入関税合わせて 43%ほどになる）、これが中古機の大量輸入をサポートする形になっている。

インドの印刷業界は中小企業が圧倒的に多く、印刷業者のおよそ 90%は中小企

業である。

これら印刷業者や出版社の大半は、資金的制約から、市場で生き残るためには中古機を使用しなければ採算が合わない。

このような輸入中古機への依存度の高さが、国内の印刷機械市場の成長に影響を及ぼしている。

中古機械取り扱い業者

会社名	業種
Amit International	中古印刷機械
Anoop Enterprises	中古印刷機械
Agarwal Graphics Machinery	中古印刷機械
Batra Graphic Machinery	中古印刷機械及び関連機器
City Graphics	中古印刷機械及び関連機器
Jindal Offset India	中古枚葉オフ
Quality Printer's Providers	中古印刷機械

- ・中古のオフセット輪転機の市場はここ数年低迷しているが、中古枚葉オフセット印刷機の市場は伸びている。
- ・輸出促進のための資本財輸入スキーム（EPCG）が中古資本財の輸入にも適用されおり、予備品、工具、ジグ、取付具、金型及びモジュールの輸入も可能である。
- ・中古の枚葉印刷機が大量に輸入されているという事実は、地元印刷機会社の製品、特に大型のものがインドの顧客の技術的要望を満たすことが出来ていないとの証拠である。

しかし、輸入中古機の使用には数多くの問題が生じている。

中古機は低コストであるかのように見えるが、その輸送コストは莫大にかかり、またその使用により望んだ通りの結果がもたらされるとは限らない。

インドだけではなく、中古機の使用には、短寿命、低生産性、高価なメンテナンスコストといった様々な問題があります。

インドの印刷業界企業の大半は中小企業であり、海外市場から新品を購入するだけの資金力が備わっていない、輸入関税が低廉という要因もあり、印刷業者や出版社が中古機を好んで購入することにより、中古印刷機械の市場は成長が続いています。

中国の「印刷週刊」という雑誌より抜粋：

インドの印刷会社や工場には中古機を購入する方式や習慣があります。

・機械メーカーとして、Man-Roland インド支社営業責任者 Avatar Singh 氏の話し

中古機の販売は大変良好であり、巨大な市場を形成している。

大型印刷会社では8年から10年物の中古機がよく受け入れられる。

インドの中古印刷機市場には組織団体がいないので、買い手は設備のギヤ、胴、その他ハードの面を自社で細かく検査せざるを得ない。

もしこれらの部品が正常に作動しないと、印刷生産に大きな影響を与えてしまう。

このため買い手は中古機の全面検査を必ず行なう。

また買い手は購入に際してその機械メーカーと連絡をとり、機械の製造番号から生産年を確認しており、また誠実な販売代理店にも協力してもらっている。

・売り手側として、 Siddhi 会社社長 Bhavin B Joshi 氏の話し

インドでは輸入の機械は少ないので、この業界では中古機の商売の方が新しい機械を販売するよりも容易である。

中古印刷機は新しい機械と同じように市場で歓迎されており、インドは世界一の中古機市場であります。

機械の状況は良好であり、中古機に投資する会社は多くの利益を得ている。

インドでは大型印刷会社でも中古機を使用している。

それらの会社が中古機を購入する場合には、販売業者の経営状況を調べ、提供される部品を細かく検査して、設備の出所は信頼出来る等を契約書にはっきりと明記する。

このように印刷会社にとって、中古機は一つの理想の選択である。

印刷機械だけでなく、あらゆる日本で使われていた機械はメンテナンスが良くて中古機として価値が高いとの評判ですので、かなりの台数の日本製機械がまだインドで稼働中のことと思います。

インドの印刷機械会社で既に**外国の関連企業と提携**している会社は下記の如くです。

インド会社	外国会社
The Printers House	KBA (Koenig & Bauer), ドイツ
Swifts India, Mumbai	AM Multi graphics, 米国
Manugraph Indai	Solna, スウェーデン
The Printools corporation	小森、イトーテック
Proteck Machinery	EFI Vulteck, 米国
Parksons Packaging	Man-Roland ドイツ
KK Printing Machinery	アキヤマ

Proteck Circuits & Systems	サクライ
Indo European	リョービ
Proteck Machinery	ホリゾン

それぞれ日本を含めて海外の印刷機械関連の会社は活発に市場展開してますが、これらも政府の政策の恩恵に浴して一面もあります。

印刷関係の政策の一部を記します。

- ・印刷機械の輸入手続きにかかる形式具備判断は商工省が行う。具体的内容は、同行が発行する輸出入に関する規則及び手続きのハンドブックに記されている。
- ・インド新聞登録局は、新聞業界が輸入する印刷機械及び関連素材について関税譲許料率が適用されるよう、バックアップを提供している。
- ・日本企業は、製品輸出を行うためインドに支店を開設することが出来る。但し、開設にはインド政府の許可が必要である。
- ・日本企業がインドに開設した支店が自ら製造活動に従事する事は認められていないが、インドのメーカーに製造委託する事は可能である。
- ・日本企業が印刷機械をインドに輸出するためには、外国投資促進委員会、貿易総局及び商工省などの対外貿易機関の許可を取得しなければならない。

印刷機械市場における可能性

- ・プリプレス市場には大きな潜在性があることが判明している。インドの企業の大半は、最新のプリプレス・テクノロジーを求めているが、これがインドでは容易に入手できないからである。
- ・全幅と倍胴の巻取オフセット印刷機に大きな需要があり広く使用されている。
- ・インドでは、中古機械が広く使用されている。インドの関税の仕組みにより、この市場は成長を続けている。
- ・印刷業者や出版社は卓越した品質と構造が備わった高速機を求めている。こうした機械を提供しているのは日本企業である。
- ・低い賃金コストにより、そして卓越した品質が備わる製品を提供出来るのは少数の企業だけであることから、インドにおける収益率は非常に高い。
- ・包装産業は14%から15%の年率で成長が続いている。包装印刷機市場は日本企業にとって旨味のある市場であろう。

印刷機械市場の展望

インドの印刷機械市場は年率16.4%で成長し、2012年にはその市場規模が9億9,210万米ドルに達すると言われていました。

経済の成長、識字率の向上、印刷業界の成長、印刷機械への需要増が、技術的進歩と教育の整備、ならびにインドへの直接投資に向けたインド政府の政策取組と相俟って、当業界への投資が促進されています。

こうした状況が主たる原動力となってインドの印刷機械産業の成長は続いていくでしょう。

インドにおける印刷機械産業の展望には非常に明るく輝かしいものがあり、おそらく数年後には、特に高品質の印刷機械に関して、さらに明るいものになっていくでしょう。

インドではコンシューマリズムが台頭し、また包装、印刷、小売及び教育部門の成長が続いています。

こうした状況が、印刷機械産業の成長原動力となっています。

全世界の印刷機械メーカーが現在インド市場に注目しており、業務提携やジョイントベンチャーを通じた市場参入の機会を積極的に追求しています。

既にインドにおいて製品販売を開始している外国メーカーもあるが、インドの印刷機械市場の成長は急激であり、今後も日本、ドイツ、米国といった様々な国からインドの印刷機械市場に積極的な参入が図られることになるでしょう。

新聞や雑誌の需要や発行部数も急激な伸びを見せており、これがインドの巻取オフセット印刷機市場を支えている。

現在インドの印刷業者は、印刷物の品質を向上させる最新のテクノロジーの備わった新しい機械を求めています。

こうした状況はインドの印刷機械産業にとっては明るい兆しであります。

最後に、今後5年から10年の間に、インドは印刷機械のホットな市場になって行くでしょう。需要と消費の増加、外国企業による安価な調達先としての役割拡大、教育やインフラの提供に向けた政府支出の増大等により、当業界の将来は極めて

魅力的なものでしょう。

最後にインドの新聞社を列記します。

全国紙

Asian Age (ニューデリー) Business Line (チェンナイ) Business Standard (ニューデリー) Economic Times (ニューデリー)
Financial Express (ニューデリー) The Hindu (チェンナイ) Hindustan Times (ニューデリー) Mille Gazette (ニューデリー)
Nava Bharat (ボーパール) News India Times Rediff (ムンバイ) Sify (チェンナイ) Sify News (チェンナイ)
The Times of India (ニューデリー)

アーンドラ・プラデーシュ州

Andhra Bhoomi (セカンダラバード) Andhra Jyoti (ハイデラバード) Andhra Prabha Deccan Chronicle (ハイデラバード) Eenadu Hindi Milap (ハイデラバード) Munsif (ハイデラバード) Praja Shakti (ハイデラバード) Siasat (ハイデラバード) Vaartha (ハイデラバード)

アッサム州

Asomiya Pratidin The Assam Tribune (グワーハーティー) The Sentinel (グワーハーティー)

ビハール州

Patna Daily (パトナ) Prabhat Khabar Ranchi Express (ラーンチャー)

デリー

Delhi World (ニューデリー) The Indian Express Group (ニューデリー) Voice of Millions (ニューデリー)

ゴア州

Gomantak Times (パナジ) Herald (ゴア) Navhind Times (パナジ)

グジャラート州

Akila (ラージコト) Divya Bhaskar (アーメダバード) Gujarat Plus (スー
ラト) Sambhaav (アーメダバード)

Sandesh (アーメダバード) Savera India Times (スーラト)

以上